

Lagrangian point

- ラグランジュ ポイント -

本展は、愛知県立芸術大学油画専攻の在学および卒業生による展覧会として企画したものであり、彼らが日本の中間地点「愛知」という場所で思考し、表現しつつあるものを紹介することでその「視点」を考察する試みです。

「愛知」にはいわゆる日本のアートシーンにおける「ラグランジュポイント(ラグランジュ点: 天体力学で円制限三体問題の5つの平衡解)」として独自の空気感と表現に対する意識が存在しています。それは「西」と「東」の「中間」に位置するという対比構造や地理的条件などの影響をも含め、様々な引力の中間地点として多様なベクトルが均衡した特殊な「重力場」のようであるともいえ、この特徴はこれまで本大学出身者を含めた愛知をルーツとする多くの作家達が活躍する中で注目されるものでしたが、現在ではあまり触れられることがないように感じます。

今回紹介する5人は展覧会初出品者から昨年の愛知トリエンナーレ出品作家までとそのキャリアは幅広く、また表現方法においても絵画や版画、インスタレーションなどと多様ですが、総じて若く可能性と不完全さを持ち合わせた作家達です。

その「可能性と不完全さ」は中間地点としての「愛知」の置かれた特殊な「重力場」に由来するものであるとともに、大きな引力に囚われずその中を自由に「泳ぐ」ことを身につけつつある彼らは、いつか誰も知らない新しい地平を見つけることになるかもしれません。

現時点での彼らの「視点」を考察する本展では、「ラグランジュポイント」の魅力とともに、「いったい彼らがどこに泳ぎ出すのか」を見据える事が出来ればと考えています。

企画:大崎のぶゆき

1. 田中 成美 TANAKA Narumi

-1 **scene (plastic)**
パネル、プラスチック、顔料 2014年

-2 **package (plastic)**
パネル、プラスチック、顔料 2014年

【C.V】
1988 静岡県生まれ
2013 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科美術専攻
油画・版画領域 修了

おもな展覧会
2012 ignore your perspective 16 / Kodama gallery 京都
HIGH LIGHT 2012 / 2013 / Kodama gallery 東京
2013 Kodama Gallery Project 36 / Kodama gallery 京都
シンガポールアートフェア (Kodama gallery より出展)

My challenge on painting always ends up with disappointment.

The image I was going for never comes out.

In the result, the canvas and pigments float somewhere between an image and it own weight.

2. 荒井理行 ARAI Masayuki

-1 **現実が要求する**
ラムダプリント、油彩、アクリル 2014年

-2 **何もうまくは隠しきれない**
ラムダプリント、油彩、アクリル 2014年

-3 **でもそれは違う音**
ラムダプリント、油彩、アクリル 2014年

【C.V】
1984 ウィンコンシン州生まれ
2011 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科美術専攻
油画・版画領域 修了

おもな展覧会
2010 個展picture picture / YEBISU ART LABO、愛知
2011 dreaming the world / MEGI HOUSE(女木島)、香川
2012 TOKYO FRONT LINE
- 3331 Art Chiyoda (STANDING PINEより出品)、東京
2013 あいちトリエンナーレ/長者町周辺、愛知
- Summer Drawing Show / GALLERY SIDE 2、東京
- VOCA 2014 / 上野の森美術館、東京(予定)

インターネット上の画像や雑誌から切り出した写真をコラージュし、現実の世界を写した写真の周囲に絵を描き足して写された場面を拡張することで、現実には有り得ないイメージを再構成する。コラージュされる写真は報道写真から映画の一場面まで様々であり、東日本大震災の写真が利用

されていることもある。
再構成されたイメージは、現実の社会に対して何らかの解釈を施している場合もあれば、シニカルな視線を投げかけている場合もある。
そしてそのイメージによって常に示唆されているのは、現実の出来事が異様な力に寄って歪められる可能性が存在していることである。

(あいちトリエンナーレ2013 作家紹介より)

3. 三浦 友里 MIURA Yuri

-1 **WALL/all is everything**
インスタレーション 2014年

【C.V】
1989 福岡生まれ
2014 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科美術専攻
油画・版画領域 在籍

おもな展覧会
2012 「選選展」/ O gallery、東京
- 全国大学版画展/町田市立国際版画美術館、東京(収蔵賞受賞)
2013 「交差する版画」/名古屋造形大学 D-gallery、愛知
- 「キュービックミュージアム・プロジェクト」/アートラボ あいち、愛知

人は自分の目でしか世界を見ることはできない。
私は私の目で光を感じたり本を読んだりしている。
そして些細なことに美しさを見出だしたり、発見をしたり、疑問を持ったりする。
私が見ていることと同じように他の人にも見えているのだと思っていた。

目に見えるものと見えないもの、言葉にできない感覚、視覚の不確かさ、時間の流れ、光の感覚。そして私の見ている世界が他者の見ている世界と少しでも繋がることを信じている。

(ステイトメントより)

4. 山口 麻加 YAMAGUCHI Asaka

-1 **space**
版(銅板)、エッチング 2014年

-2 **plaid**
版(塩ビ板)、ガムテープ 2014年

-3 **a wall**
版(塩ビ板)、ドライポイント、マスキングテープ 2014年

-4 **green**
版(塩ビ板)、ドライポイント

【C.V】
1991 大阪生まれ
2014 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科美術専攻
油画・版画領域 在籍

おもな展覧会
2012 京展/京都市美術館、京都
2013 大学版画交流展「交差する版画」/名古屋造形大学、愛知
- 「キュービックミュージアム・プロジェクト+a」、アートラボあいち、愛知
- 個展「ドローイングの現像」/studio AMR、愛知
- 全国大学版画展/町田市立国際版画美術館、東京

日常生活の中でふと目に留まる物や風景がある。それらはごくありふれたものでありながら、興味深い出で立ちをしている。

例えば、止められた自転車の上にマットレスらしいものが乗せられている。私はその「物」を注視すると同時にその背後にある「事」を見つめている。そこにある自転車とマットレスは無形の「事」の結果としての「物」である。しかし「物」と「事」、あるいはそれを見つめる私の間にはズレが生じていることも事実である。

私はイメージが作品という「物」に至るまでに起きるいくつかの「事」(ドローイング、トリミング、コンポジット、エフェクト)を版画の制作工程と共に自覚的に行うことによって、その過程で発生する意味や印象あるいはズレを深く見つめようと考えている。

(ステイトメントより)

5. 杉浦 由梨 SUGIURA Yuri

-1 ○○について考えながら
インクジェットプリント、映像、インスタレーション 2014年

【C.V】
1989 愛知県生まれ
2014 愛知県立芸術大学 美術学部美術科油画専攻在籍

おもな展覧会
2012 プレプレ卒展 / 市民ギャラリー矢田、愛知

「○○について考えながら」は、彼女がこれまで衣装制作や身体表現、パフォーマンスを通して自身について思考し自己表現を模索していた過程から、浴槽で抜ける髪の毛を描画材料として浴槽内やタイルなどに描かれた「絵画」を記録、撮影した写真と映像からなるインスタレーションである。日常の中で誰しもが経験する「抜け毛」という元々彼女自身の一部であった物体を描画材料として

使用し、頭に浮かぶことや思う事などのイメージを浴槽に浸かりながら徒然と描き、浴槽であるが故に定着されることなく洗い流されていく。

この一連の儚い連続をインスタレーションとして表現された本作品は、いわば彼女自身を投影した「セルフポートレート」といえるだろう。インスタレーションの一部でもある、彼女が浴槽に浸かりながら裸で描く状況を撮影した写真からも想起するように、彼女自身の「等身大の私」が素直に裸のまま提示されているような感覚を憶える。

(大崎のぶゆき)

